

平成 30 年度大阪府立和泉支援学校 第 3 回学校運営協議会 記録

日 時：平成 31 年 2 月 13 日（水） 10 時 10 分～11 時 30 分
場 所：和泉支援学校 校長室

○ 開 会 本協議会の成立確認 配付資料確認

○ 学校長あいさつ

○ 協議会委員紹介

- ・後上 鐵夫 大阪体育大学教育学部教授 兼 社会貢献センター長
- ・松尾 達子 泉大津公共職業安定所 専門援助部門 統括職業指導官
- ・阪下 誠 和泉市教育委員会事務局 学校教育部 指導室 人権教育担当課長
- ・石田 絹子 大阪府立和泉支援学校 P T A 元副会長
- ・藤井 彰人 大阪府立和泉支援学校 P T A 会長
- ・南 三郎 和泉市池上校区会長 連合会長（当日欠席）

○ 事務局員紹介

校長、教頭、事務長、首席、各部主事

○ 協 議

【1】今年度の学校経営計画の進捗状況について（校長より報告）

<質問・意見等>

- ・進路のニーズへの対応について 100%達成という結果は、日頃の取り組みの成果であると思う。一方、3名が離職とあるが、その卒後の追跡調査やフォローはどのようになっているか？
- ・離職したケースの理由について、1名は人間関係によるストレス、1名は職種・職場への不適合、1名は男女交際による自己都合であった。卒後の追跡調査については、進路専任が定期的にチェックアフターフォローにつなげている。今後はさらにアフターフォローの側面を大切にして、卒業生が相談できる学校でありたい。
- ・離職したあとの再就職については、どのような現状か？
- ・再就職の斡旋については、就ポツ（障害者就業・生活支援センター）が中心となって進めることになっている。再就職に気持ちが向かないようなケースもあれば、再就職できたケース、さらには自ら新しい業種への就労をめざすケースもある。学校としても、必要に応じて連携して、再就職を支援していきたい。
- ・学校経営計画に個別の教育支援計画に合理的配慮を記載していくとの記述があるが、現時点で、どのような現状になっているのか？
- ・今年度は、校内での理解を深めて、保護者との共通理解を図っている段階にある。一方、個別の教育支援計画自体の活用について、福祉連携等で十分に活用されていない現状も、まだみられる。個別の教育支援計画に合理的配慮が記載されて満足することなく、本人・保護者にとって使い勝手のよい資料をめざしていきたい。
- ・合理的配慮の提供に関しては、法律で定められたものの、学校での活用については具体的に示されていない。まずは、合理的配慮について保護者との合意形成を図ることを大切にしてほしい。
- ・ご指摘ありがたい。保護者と合意形成していく上では、肯定的表現が基本になると思われるが、

まわりくどい、または実態のわかりにくい表現になることがある。記載のあり方を検討し、明確な実態表記や活用への利便性向上も図っていききたい。

- ・肯定的な表現だけでなく、肯定的に変容した点、または肯定的に変容するきっかけとなった学校のアプローチを記載し、残していくことが大切になるように思う。福祉連携についても、そういった記載をすることで、有効な連携が図れるのではないかと思う。
- ・わが子が学校から福祉事業所に入ることになった時の経験を振り返ると、事業所は個別の教育支援計画を見ていない。ただ、福祉事業所によって違うとは思う。個別の教育支援計画の引き継ぎについて、保護者としてはどこまで踏み込んでお願いするか難しい。どの保護者も子どものことを自ら細かく説明していかなければならないと思っている。
- ・早く利用者と関係をつくりたい事業所は、個別の教育支援計画の引き継ぎを求めるだろうし、学校や保護者との連携も積極的に求めてくるだろう。文章だけだと、困難さだけが強調されることがある。そこは、丁寧な説明が必要だろう。
- ・具体的な就労移行も見据えて、個別の教育支援計画のあり方は検討を進めていく必要がある。あまり分量が多くなると読まれない傾向があるので、精選を含めて検討していききたい。

【2】平成30年度学校教育自己診断結果について 首席より報告

＜質問・意見等＞

- ・児童生徒は、自然な感覚で、素直にみている。反省する点は、子どもたちに教えられていることを、忘れてはならない。
- ・教員がこの自己診断結果を見ることは大切だろう。「楽しくない」との意見については、今後の指導を改善する上で、さらに検証する必要があるだろう。
一見、80%以上が肯定的な回答をしているようだが、このような結果の時は、否定意見に注目することが原則になる。少数意見ではあるが、学校を改善するために必要な視点が含まれていることを、意識しなければいけない。

【3】次年度の学校経営計画の進捗状況について（校長より提案）

- ・次年度の学校経営計画については、本年度をベースにしており、達成状況を踏まえて設定している。大枠に変更はない。特に未達成となっている就職率等の数値は、適切な数値目標に変更している。
必要であれば、ここで修正頂いて、この場で承認をいただきたい。
- ・和泉市としては、支援教育地域支援整備事業で実施している和泉支援学校の地域支援活動に、大変お世話になった。現実として、支援学校の教員に小・中学校に足を運んで頂く形が、もっとも有効な支援形態になっている。負担は承知の上だが、次年度も是非、お願いしたいと思う。
- ・先ほど離職や再就職の話題があがったが、ハローワーク泉大津としても、学校と情報共有や連携を図りながら再就職をすすめたいと思うので、今後もご協力いただきたい。
- ・先ほど学校教育自己診断結果の話題があがったが、「学校が楽しいですか」の問いに「いいえ」と回答する児童生徒のために積極的に動ける学校であってほしいと思う。また、児童生徒に特性や特徴があるように、保護者にも特徴がある。学校には、個々のケースに応じて、寄り添って対応していただくとうれしい。
- ・学校運営協議会の資料や質疑応答を通して、私としてはよくがんばっている学校の印象がある。
新しいことに対応しようとするには、校内体制の改善・再編が必要。「学校が楽しいですか」「学校は適切な教育をしていますか」の問いに、「いいえ」と回答する児童生徒や保護者に対する支援は大変難しいことではあるけれども、その支援を教員が共有することがとても大切に

なる。一方、数値による評価は大切だが、それにとらわれずに学校のあり方を検討していった欲しいとも思う。

- ・これをもって、平成 31 年度学校運営計画案を承認したいと思う。

○ 学校長お礼

- ・貴重なご意見やご指摘ありがとうございました。

次年度の校長により、若干の修正が加わることもあり得るが、今回の提案が骨子となる。この協議会委員の任期は平成 32 年 3 月 31 日までとなっているので、また次年度の学校運営協議会にて、追認をお願いしたい。

○ 次回連絡 平成 31 年 6 月 12 日（水）10：00～